

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37445
事業名	高齢者等の在宅医療ネットワーク推進費					
評価担当課	所属名	保)保健所 医療政策課				
	課長名	高田 誉之	担当者名	石田 詩織	電話番号	011-622-5162
施策名	主	地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ● 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療に関わる医師や看護師等医療従事者の人材育成を行うため 在宅医療を担う医師の後方支援体制の整備を図るため 			
		長期	市民が住み慣れた地域で「もれ」や「きれめ」なく必要な医療を受けられるよう在宅医療の充実・強化を図り、地域における療養できる場所を確保するため			
	取組内容	<p>本市の在宅医療提供体制を整備するため、下記の取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ①在宅医療を担う人材の育成 ②在宅医療を担う医師の後方支援体制の整備 ③市民への普及啓発等 				
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> 医師等を対象とした人材育成研修の開催(計19回 参加者数:延べ1,127人) 歯科医師、薬剤師、看護職を対象とした人材育成研修の開催(歯科医師:計2回 参加者数:延べ311人、薬剤師計1回 参加者数:延べ152人 看護職:計6回 参加者数:延べ104人) ガイドブック等の配布や講演会(委託:2回)による普及啓発 主治医・副主治医等によるグループ診療体制の運用(10グループ) 					
事業実施における工夫点	これまでに抽出された課題を円滑に解決するため、各関係団体と連携して事業に取り組んだ。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で集合形式での研修開催が難しい時期もあったが、オンライン形式により研修を開催したものもあった。					
対象者	市民、医療従事者	開始	平成27年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律、介護保険法、医療法					
他都市の状況	全国の各市町村においても同様の取組が行われている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	25,538	47,000	24,777	47,000	
うち特定財源	22,442	44,687	22,022	44,558	
人工	0.3	0.3	0.3	0.3	
人件費	2,160	2,160	2,160	2,160	
計(事業費+人件費)	27,698	49,160	26,937	49,160	
事業費の内訳	令和3年度決算	①人材育成研修の実施(歯科医師985千円、薬剤師677千円、看護職2,292千円) ①②③在宅医療提供体制整備業務19,676千円(医師人材育成、市民普及啓発、後方支援体制の整備) ②市民への普及啓発等1,000千円(講演会) その他(郵送代)147千円 計24,777千円			
	令和4年度予算	①人材育成研修の実施(歯科医師985千円、薬剤師880千円、看護職2,958千円) ①②③在宅医療提供体制整備業務42,117千円(医師人材育成、市民普及啓発、後方支援体制の整備) その他(郵送代)60千円 計47,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	在宅医療に関する医療従事者向け研修回数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	30回	58回	28回	48回	
活動指標2	指標名	グループ診療体制の運用数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	10グループ	10グループ	10グループ	10グループ	
成果指標1	指標名	在宅医療に関する医師等を対象とした研修の受講者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	2,255人	3,600人	1,694人	3,100人	
成果指標2	指標名	市内医療機関が在宅で看取りを行った件数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	166件	180件	未確定	180件	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	人材育成:在宅医療従事者の確保・育成のため研修を実施。回数について、コロナ禍であったが仕様に定めた回数(23回以上)を開催することができた。 普及啓発:市民を対象に在宅医療・人生会議に関する講演会を例年どおり2回開催 後方支援体制の整備:グループ診療体制を整備し、10グループを維持した。なお市内の医療機関が在宅で看取りをした件数は増加傾向にある。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	研修機会を確保するなど、適切な参加者数のもと取組を進めたため、事業規模は適切であった。			
事業の実手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	事業内容に応じて、適切な関係団体と連携を図りながら取り組んでいる。また、全て委託事業とすることで、効率的に実施できている。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	医師を対象とした研修では、参加者から多数の質問が出る等、有意義な研修となった。歯科医師や薬剤師、看護職を対象とした研修では、アンケート調査の結果から、研修内容については約9割以上の方が満足していた。また、市民向けの在宅医療に関する講演会を実施した結果、写真や生の声がたくさんあり参考になった、在宅医療を受けている患者さんの生の声が聞けたことが印象的だった、先生の言葉の一つ一つに温かさを感じた、事例照会と動画がとても良かった等の好意的な意見をいただいた。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	・在宅医療を担う従事者の需要が増大することが予想されるため、今後も研修等を通して人材を確保・育成する。また、看護職を対象とした研修は3種類あるが、参加人数に差があるため、原因分析を行い、ニーズにあった研修を実施していく。 ・自分らしく生きて最期を迎えたいという人生の在り方を決めるACP(人生会議)は、人生の質を高めるうえで必須のものであることから、市民向けセミナー等の周知啓発の拡充が必要。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	看護職を対象とした研修の一部をオンライン研修とし、参加者側の負担を減らし、より申込しやすくした。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	人材育成研修や普及啓発講演会について、参加者アンケートで高い評価を得ているため。また、在宅での看取り件数も増加傾向にあるため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 在宅医療を担う医師・歯科医師・薬剤師・看護職向け研修のほか、在宅医療を担う医師の後方支援体制の整備を引き続き行うことで在宅医療の体制の維持を目指す。併せて市民への普及啓発については一層の充実を図っていく。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他		見直し効果額	0
	市民への普及啓発について一層の充実を図るため、令和4年度と比較して拡充する。				